

# 『福沢諭吉と帝国主義イデオロギー』の福沢諭吉出典一覧

杉田 聡

私は2016年12月に、一年間の研究をとりまとめた『福沢諭吉と帝国主義イデオロギー』（花伝社）という書物を上梓した。

ただし同書では、紙数の関係上、福沢の著書・論説は本文中で岩波版全集の巻数とページ数を記すにとどめ、巻末の文献一覧にこれを載せることができなかった。

しかし、研究者としては、同書で言及・引用した著書・論説名を、岩波版全集をひもとくことなく知りうるようにするのが義務だと考える。せめてもの方策として、それらを所属大学の電子資料館（リポジトリ）で公表することにした。

以下がその一覧である。

## 第1巻 著書

①12-23「唐人往来」（62年頃、「福沢全集諸言」所収）、①275-382『西洋事情初編』（66年）

## 第2巻 著書

②453-484『掌中万国一覧』（69年）

## 第3巻 著書

③21-144『学問のすゝめ』（72-76年）

## 第4巻 著書

④1-212『文明論之概略』（75年）、④213-229『学者安心論』（77年）、④567-597『通俗民権論』（78年）、④599-645『通俗国権論』（79年）、④647-673『通俗国権論二編』（79年）

## 第5巻 著書

⑤1-61『民情一新』（79年）、⑤63-93『国会論』（79年）、⑤95-231『時事小言』（81年）、⑤257-292『帝室論』（82年）、⑤293-348『兵論』（82年）、⑤365-390『学問之独立』（83年）、⑤423-444（84年）、⑤423-444『通俗外交論』（84年）、⑤445-474『日本婦人論』（85年）

## 第6巻 著書

⑥1-29『尊王論』（88年）、⑥31-70『国会の前途』（92年）、⑥71-95『国会難局の由来』（92年）、⑥113-142『地租論』（92年）、⑥143-194『実業論』（93年）、⑥195-384『福翁百話』（96-97年）、⑥387-435『福翁百余話』（97年）、⑥461-503『女大学評論』（99年）、⑥505-526『新女大学』（99年）

## 第7巻 著書・覚え書き

⑦1-260『福翁自伝』(99年)、⑦655-89『覚書』(75-78年)

## 第8巻 『時事新報』論説

### 82年

⑧28-31「朝鮮の交際を論ず」、⑧56-62「遺伝の能力」、⑧62-64「故社員の一言今なお精神」、⑧64-67「圧制もまた愉快なるかな」、⑧68-73「立憲帝政党を論ず」、⑧80-83「神官の職務」、⑧83-85「朝鮮元山津の変報」、⑧94-96「朝鮮政府へ要求すべし」、⑧98-99「馳せ登りたり」(漫言)、⑧243-249「朝鮮の変事」、⑧275-284「朝鮮政略備考」、⑧290-292「出兵の要」、⑧294-296「朝鮮の事に関して新聞紙を論ず」、⑧296-305「日支韓3国の関係」、⑧313-322「支那国論に質問す」、⑧326-329「朝鮮事件談判の結果」、⑧334-337「朝鮮の償金五十万両」、⑧343-349「鉄道論」、⑧357-360「妻妾区別の説」(漫言)、⑧427-443「東洋の政略はたして如何せん」、⑧447-450「造船の事業奨励せざるべからず」、⑧452-457「肉食せざるべからず」

### 83年

⑧479-496「明治十六年前途の望み」、⑧507-516「支那・朝鮮の関係」、⑧541-554「開国論」、⑧561-564「『時事新報』の一周年日」

## 第9巻 『時事新報』論説

⑨100-108「世態論時事新報に呈す」(五九楼仙蛮寄送)、⑨131-137「人事停滞の毒恐るべし」、⑨192-204「外交論」、⑨268-277「儒教主義」、⑨277-294「徳教の説」

### 84年

⑨458-460「移住論の弁」、⑨460-463「人を容ること甚だ易し」、⑨472-478「日本東京万国大博覧会」、⑨503-525「条約改正論」、⑨525-528「奮いて故郷を去れ」、⑨541-545「尚早し既に晚し」、⑨564-567「華族の資格如何」

## 第10巻 『時事新報』論説

⑩42-8「支那を滅ぼして欧州平らかなり」、⑩72-80「東洋のポーランド」、⑩80-100「貧富論」、⑩137-140「朝鮮事変」、⑩144-146「わが日本国に不敬・損害を加えたる者あり」、⑩147-151「朝鮮事変の処分法」、⑩155-158「軍費支弁の用意大早計ならず」、⑩158-162「戦争と為れば必勝の算あり」、⑩162-168「国民の私に軍費を醸集するの説」

### 85年

⑩181-184「敵国・外患を知る者は国亡びず」、⑩184-187「御親征の準備如何」、⑩210-212「求むる所はただ国権拡張の一点のみ」、⑩234-238「外交際の主義は修身論に異なり」、⑩238-240「脱亜論」、⑩253-256「朝鮮国の始末もまた心配なるかな」、⑩299-304「老壯論」、⑩379-382「朝鮮人民のためにその国の滅亡を賀す」

## 第11巻 『時事新報』 論説

①11-14 「全国雑居」、①63-65 「離婚の弊害」、①121-125 「外交の要は内外両様の信を重んずるに在り」

87年

①175-178 「朝鮮は日本の藩屏なり」、①178-180 「外国との戦争必ずしも危事凶事ならず」、①268-270 「日本の華族」、①413-415 「官民調和論」、①416-418 「今後を如何せん」、①469-472 「教育組織の改革を祈る」

## 第12巻 『時事新報』 論説

88年

②20-46 「日本国会縁起」

## 第13巻 『時事新報』 論説

89年

③23-36 「航海業」、③69-104 「貧富論」、③142-144 「富豪の摂生法」

92年

③338-344 「山陽鉄道会社」、③400-403 「朝鮮の変乱」、③412-418 「一大英断を要す」、③466-468 「所属論は論ぜずして可なり」、③512-520 「資本の用法」、③584-587 「工商の実業家は自ら謀るところあるべし」、③588-597 「富豪の要用」

## 第14巻 『時事新報』 論説

93年

④5-7 「議会閉会して後の始末は如何」、④29-31 「朝鮮の政情」、④61-65 「朝鮮談判の落着、大石公使の挙動」、④106-112 「伝染病研究所の始末」、④145-147 「近来の弊事」、④179-183 「銅像開被につきて」、④190-192 「宗教と慈善」、④202-206 「敢て非内地雑居論者に告ぐ」

94年

④253-255 「政府の責任いよいよ大なり」、④255-257 「なんぞ方針を一定せざる」、④261-270 「日本外交の進歩」、④273-275 「人心すでに倦めり」、④284-287 「条約改正の結果如何」、④287-289 「支那人の内地雑居」、④289-322 「維新以来政界の大勢」、④347-349 「韓人の治安妨害」、④386-388 「朝鮮東学党の騒動につきて」、④392-393 「速に出兵す可し」、④397-398 「支那人の大風呂敷」、④410-414 「朝鮮の文明事業を助長せしむべし」、④413-416 「日本兵安易に撤去す可らず」、④434-436 「兵力を用うるの必要」、④441-444 「世界の共有物を私せしむべからず」、④451-454 「朝鮮の改革は支那人と共にするを得ず」、④456-458 「外国の勧告を拒絶してさらに如何せんとするか」、④468-470 「改革委員の人物如何」、④470-472 「改革論はたして拒絶せられたり」、④479-481 「支那・朝鮮両国に向かいて直ちに戦を開くべし」、④485-488 「我にはさむところなし」、④491-492

「日清の戦争は文野の戦争なり」、④494-497「満清政府の滅亡遠きにあらず」、④498-501「直ちに北京を衝くべし」、④505-507「必ずしも北京の占領に限らず」、④507-509「改革の結果は多数の幸福なるべし」、④512-514「軍資の義捐を祈る」、④514-517「私金義捐につきて」、④517-519「人心の変化図るべからず」、④522-524「曠実弥久はむしろ支那人のために思うべし」、④524-527「軍費支弁につき酒税の増加」、④530-532「砂糖に課税の利害」、④532-535「義金の醸出につきて」、④545-550「日本臣民の覚悟」、④555-557「朝鮮の改革に因循すべからず」、④570-572「支那將軍の存命万歳を祈る」(漫言)、④572-575「支那の大なるは恐るるに足らず」、④580-582「朝鮮の独立」、④582-584「宗教の功能」、④634-637「朝鮮の改革」、④644-646「破壊は建築の手始めなり」、④647-649「朝鮮の改革その機会に遅るるなかれ」、④659-660「台湾割譲を指令するの理由」、④663-665「眼中清国なし」、④666-668「朝鮮の殺戮無稽の流言」、④675-677「わが軍隊の挙動に関する外人の批評」、④677-681「軍事・商事かならず併行すべし」

## 第15巻 『時事新報』論説

### 95年

⑮8-10「改革の勸告ははたして効を奏するや否や」、⑮11-13「朝鮮の改革に外国の意向をはばかるなかれ」、⑮18-20「朝鮮の交際はわが政府これを貸付すべし」、⑮23-25「容易に和すべからず」、⑮26-28「外国干渉の説、聞くに足らず」、⑮28-32「福沢先生の演説」、⑮40-60「外戦始末論」、⑮83-84「責、李鴻章にあり」、⑮84-87「横字新聞一種の論説は信ずるに足りず」、⑮88-89「武士は相身互い」、⑮94-96「義侠にあらず自利のためなり」、⑮100-101「奉天靈場の安危いかん」、⑮121-122「休戦と平和とは関係なし」、⑮124-126「長崎造船所」、⑮126-128「外国人の評判」、⑮132-136「平和談判の結局につきて」、⑮139-141「新領地の処分」、⑮141-143「明治二十八年四月二十一日交詢社大会演説大意」、⑮161-163「台湾の処分法」、⑮168-170「同盟国の必要」、⑮170-171「製鋼所設立」、⑮172-173「御還幸を迎え奉る」、⑮188-192「朝鮮問題」、⑮193-195「国勢の拡張、増税の必要」、⑮200-202「大いに清酒税を増すべし」、⑮210-212「兵士の恩典」、⑮212-213「兵士をして親しく恩典を排せしむべし」、⑮214-216「日英同盟論につきて喜ぶべき一事」、⑮222-225「道徳の進歩」、⑮230-232「在韓日本人の取り締まりを厳にすべし」、⑮232-234「朝鮮の処分如何」、⑮235-237「軍艦製造の目的」、⑮239-241「増税の決断」、⑮244-246「支那内地の企業を奨励すべし」、⑮250-252「戦後の経済」、⑮264-266「台湾永遠の方針」、⑮269-270「厳重に処分すべし」、⑮282-284「製鋼所並びに銑鉄の貯蓄」、⑮295-297「社寺の保存法等閑にすべからず」、⑮299-301「進取の方針」、⑮304-305「事の真相を明らかにすべし」、⑮312-314「朝鮮の独立」、⑮314-315「今日に処する国民の心得」、⑮320-322「戦死者の大祭典を挙行すべし」、⑮322-324「外交上の八方美人」、⑮332-333「二十八日の京城事変」、⑮339-341「死者に厚くすべし」

### 96年

⑮350-352「人民の移植」、⑮354-356「台湾の騒動」、⑮361-362「移民と宗教」、⑮362-4「人民の移住と娼婦の出稼ぎ」、⑮367-371「朝鮮政府に金を貸すべし」、⑮371-373「移民と航海」、⑮373-375「移民の保護」、⑮379-381「朝鮮政府の転覆」、⑮387-390「朝鮮事変の善後策」、⑮390-392「朝

鮮平和の維持策」、⑮392-394「対朝鮮の目的」、⑮432-434「神官無用ならず」、⑮443-435「鉱山  
払下げに資格は無用なり」、⑮466-467「台湾施政の官吏」、⑮472-474「まず大方針を定むべし」、  
⑮474-476「政令に従わざるものは退去せしむべし」、⑮476-479「台湾島民の処分甚だ容易なり」、  
⑮481-483「軍備拡張に官民1致」、⑮516-518「尚武は日本人固有の性質なり」、⑮525-528「海軍  
拡張の程度と国力」、⑮535-537「国民納税力の程度」、⑮537-540「大いに清酒税を増す可し」、⑮  
544-546「不徳と言わんよりむしろ無知なり」、⑮558-560「歳入の前途甚だ多望なり」、⑮560-562  
「地租は容易に増すべからず」

#### 97年

⑮581-584「資本主と職工」、⑮586-589「職工条例制定の必要ありや」、⑮613-615「軍備縮小説に  
ついて」、⑮624-625「不平破裂の時機」、⑮626-628「政治上の不平を如何すべきや」、649-651「内  
務大臣の鉱毒視察」、⑮663-664「日露協商」、⑮669-670「足尾鉱山鉱毒事件の処分」

### 第16巻 『時事新報』論説

⑯8-10「学術進歩の賜として見るべし」、⑯17-19「米布合併につき日本の異議」、⑯19-25「対外前  
途の困難」、⑯28-30「国を開かば大いに開くべし」、⑯53-55「形勢さらに急なり」、⑯55-58「外患  
未だ去らず内憂来る」、⑯63-65「日英同盟の説につきて」、⑯70-72「新聞紙の外交論」、⑯81-83「外  
交の危機」、⑯84-86「国民の覚悟」、⑯105-112「明治三十年九月十八日慶応義塾演説館にて学事改  
革の旨を本塾の学生に告ぐ」、⑯121-124「職工条例は翻訳条例なるべし」、⑯127-131「開国同化は  
日本の国体に差し支えなし」、⑯132-134「事実を見るべし」、⑯157-159「ドイツの挙動」、⑯163-165  
「対外の進出」、⑯181-183「当局者に誠意誠心ありや」

#### 98年

⑯202-204「大いに外資を入るるべし」、⑯204-207「十四年前の支那分割論」、⑯213-216「支那分  
割とうてい免るべからず」、⑯216-220「支那分割後の腕前は如何」、⑯238-240「増税と減税」、⑯  
256-259「商工立国の外に道なし」、⑯271-273「排外思想の系統」、⑯273-276「排外思想と儒教主  
義」、⑯276-278「儒教主義害はその腐敗にあり」、⑯278-281「儒教復活の責は今の当局者にあり」、  
⑯281-284「我輩はむしろ古主義の主張者なり」、⑯289-291「宗教に内外を区別すべからず」、⑯  
291-294「今の外交の心得は如何すべきや」、⑯299-301「空論の時にあらず」、⑯324-326「支那に  
対してさらに要求すべきものあり」、⑯326-329「対韓の方針」、⑯329-331「対韓の方略」、⑯331-334  
「対清要求の理由」、⑯334-336「やむを得ざれば威力を用うべし」、⑯338-340「増税の断行に躊躇  
すべからず」、⑯344-346「朝鮮移民につき僧侶の奮発を望む」、⑯346-348「所得税は断じて増すべ  
からず」、⑯348-350「老偉人グラッドストーン」、⑯351-354「威海衛の引き揚げ」、⑯390-396「榎  
田ノブの犯罪につきて」、⑯405-407「税源選択の順序」、⑯412-415「米西戦争およびフィリッピン  
島の始末」、⑯428-430「内助の功を没すべからず」、⑯483-485「一切反対」

#### 99年

⑯507-509「女大学の流毒」、⑯526-527「一步を退くべし」、⑯547-550「清僧大いに奮発すべし」

#### 00年

⑩598-600⑩「地方における元老の挙動」、⑩620-622「国の為に戦死者に謝す」、⑩623-624「漫(みだり)に一兵をも損ずべからず」、⑩625-626「国民自衛の覚悟」、⑩627-629「商売人失望すべからず」、⑩629-633「政府に責任あり」、⑩683-686「帝室の財産」

### 第17巻 書簡

⑩471-480 (81年) 井上馨・伊藤博文あて、⑩516-517 (82年) 岩倉具視あて、⑩571-572 (83年) 福沢一郎・捨次郎あて、⑩658-659 (85年) 飯田三治あて、⑩673 (85年) 飯田三治あて、⑩719-720 (85年) 河村純義あて

### 第18巻 書簡

⑩347-349 (89年) 荏田平五郎あて、⑩626-627 (94年) 井上角五郎あて、⑩693 (95年) 林鈞蔵あて、⑩713 (98年) 井上角五郎あて

### 第19巻 雑文

⑩265-268 (82年) 「局外窺見」第四章原稿、⑩558-560 (76年) 「字を知る乞食」、⑩710-712 (81年) 「宗教の説」、⑩717-720 (94年) [明治二十七年八月軍資醸集相談会における演説]、⑩791-792 (71年) [西洋料理千里軒の開店披露文]

### 第20巻 雑文

⑩11-15 (67年) 「或云隨筆」、⑩49-53「中津留別の書」、⑩145-151 (75年)、「アジア諸国との和戦はわが榮辱に関するなきの説」、⑩156-159 (76年頃) [政府は人望を収むるの策を講ずべし]、⑩196-201 (79年) 「華族を武辺に導くの説」、⑩230-232 (81年) 「宗教の説」、⑩232-240 (81年) 「明治辛巳紀事」、⑩284-285 (84年) 「北京夢枕」(錦絵)、⑩285-305 (84年) 「京城変乱始末」、⑩414 (97年) 「勲章などは御免」

### 第21巻 雑文

⑩201-213 (84-96年) 「時事新報計算簿」、⑩353-356 (00年) 「修身要領」